

楠正成星 / よくきけ
よ西郷吉之助、御身ハ
/ わかいじぶんから
天朝をおもひ / 忠義無
二にてミなかんしんせ
ぬ / ものなく、ことに
正三位までにいたり、
/ われわれはじめよろ
こび、勤王一等 / なり
とおもひのほか、この
たびの / ぼうきよハな
にごとぞ、いくさハ /
われわれよりかうハあ
れど、ぞくの / 名義ハ
万世までのこるハ、ア
ア / 清麻呂君かなしい
かなしい、

山師 / 西郷さん、も
つとがまんしていくさ
を / やつてくだされバ
いいのに、ここが / か
んじん、さうばがさが
ると / たいへん、たい
へん、しんだいかぎり
を / してもおいつかね
へ、エエエエ / ざんね
んざんねん

おいらん / 「ああいそ
が / しいこと、いそが
しいこと、一トばんに
二十 / 人ぐらゐるまハ
し、チョツ巡査の / 御
方なら日夜ハおろか、
ねるめも / ねずに、お
かねほしきにくがいも
いとひま / せん、しか
し、いくさがおさまれ
ハ、ミなはんが / おく
にへおかへりなんすの
でこころぼそい、 / い
くさがどんどんあれバ
いいんでありんす、

小ぞう / 「いくさがも
つとあれバいい、店ハ
いそがしいし、 / ふく
ハどんどんミしんでき
たて、そのいそがしい
まぎれにせにをもらつ
て、使の / たびにかひ
くひができる、こな
いい事ハ / あるまいが、
アア小ぞうみやうりが
 / つきたのか、どうぞ
いくさの / あるやうに
しておくれ、

こんさい / 西郷大明
神さま、西郷大明神さ
ま、あれほどおねがひ
申上 / ますいくさがな
がくだんなハうちじに
を / なさったらかわい
い男とそひ / ぶしをし
てきかいおるハもち /
ろんそうなりますれバ
かねの / とりゐオツト
わあしハうそつきで /
とりゐがありません /
かねかしにでもなり /
ませう

こんや諸工人 「このあ
いだうちのいそ / がし
さおふくろも大きに /
よろこんでゐたがいく
さが / おさまれバ / だ
んだん / ひまになる /
ことかな / ハぬもうす
こし / どんどんやつて
 / くだされバ / いいの
に

はいたつ / 賈社なぞハせんそうからいそがしいこといそがしいこと、 / ぼくも月きうがまし、はいたつハほねが / をれるが、イヤもうかねがはいるのが / うれしい、なんでも新聞というからめづらしく / づどんとめさきがかわらなけれバ / いかねへ、

賊魁 西郷隆盛 輔首 新政厚徳

清正 / 西郷がしろをかこんで / 二十四度せめるしの原、 / ろうぜうをしてふせぐは谷君の / はたらき、さすが陸軍少将たけ / 又一ツにハわがはいのきづきし城ハいかか、西郷氏どうだネヘエヘン、

けん下の百姓 / 西郷が / わしらのけん下 / へおしこんできて、 / でんち、でんはたハふミあらされ、うちハ / やかれてしまひ、 / ほんにミづ / のミ百せうに / なってしまった、 / くやしい、くやしい

ばばア / 『おらがたつたひとりのまごをかハいいことと / たのしみにしてはいるうち、おかミから兵たいに / めされ、なきのなミだで出たが、こんどの / いくさにしんでしまった、これも / 西郷のおかげである、くやしくツてならぬ、アアかなしや、かなしや /

平将門星 / アラう
れしや、うれしや、
よろこ / ばしや、お
とにきこへし / 西郷
を、とふとふぞくに
 / 引すりこミ、うち
死を / させたうへか
らハ、 / 身どももぞ
くの名ハ / こうせい
までこうせいまで

紀友 / 『おれも九州
でハながく / たたか
ひ、ミつ仲はじめな
やまし、 / 名を万代
にのこしたが / 西郷
氏にハとても / およ
ばん、

商人 / 『わたくしどもはじめ
しよ商人は、 / 西郷がとんだ
ことをしだした / からあきな
ひはひまだし、 / ゆうづうハ
きかず、イヤハヤ / もうよわ
りきりました、 / このいくさ
がながくつづい / てハひもの
になるところ / だツた、

おツかあ / 『ちゃんや、はや
くこないか、 / 西郷ぼしがお
ちた、おちた、うちじにの /
とき首がないといふはなしだ
が、 / そらの中ハ大へん大へ
んからだか / かくれて、くび
ばかり / ミへる、

シイレ画工 『ぼくなんぞハて
んぐをいふが、 / 人がかくも
のをもらてこんにハ / へいこ
うへいこう、家内おほでハ /
あるし、うまい酒一ツぱい /
のまこともならぬ、モウ / て
んぐもよそふ、エヘンエヘン

ねこ / 『わたいらもいくさか
らすこしも / おきやくハなし、
ぜいハおさめ / なくツてハは
らず、おツかあ / にハ小ごと
をきくし、 / こんなばかばか
しい / 事ハない、

大工 / 『おれなんざア、せん
そうこのかた / ひまなこと、
ひまなこと、火事があつても
 / たれもふしんハせず、イヤ
もう / よわりきったぞペラン
メイ

車ひき / 『イヤモ
ウひまで / ひまで、
いくさ / からこま
り / きる、車のは
だいハたまるし、
 / おやかたにハせ
つかれ、 / がきに
ハなかれ、 / この
とふり / やせた、
いま / いましい、